

招 請 状

改憲・戦争阻止の大学ストライキを！ 京大4学友への「無期停学」処分撤回！ 全学連第77回定期全国大会に集まろう！

2016年7月20日 全学連中央執行委員会(斎藤郁真委員長)

全国の学生みなさんに、9月1～2日に開催する全学連第77回定期全国大会への参加を呼びかけます。

「戦争をとめるための百篇のすばらしい理屈の先に、決断と具体的行動とがいま求められている。同学会中執は10月27日の京大反戦ストライキをなにがなんでも貫徹します」(京都大学全学自治会同学会HPより)——安保関連法(戦争法)制定に対する国会前・街頭での怒り冷めやらぬ昨年10月、「戦争を止める道」を真に指し示す闘いとして、そして「口舌の徒」と化した大学人・知識人への弾劾として、さらに戦火の中で生き抜き闘う世界の仲間たちへの心からの連帯として、京大の仲間はキャンパスから反戦ストライキに立ち上がりました。そして、この京大反戦ストにかけられた今年3月の「威力業務妨害」でつち上げ弾圧をはねのけ、「不起訴・奪還(釈放)」「完全無罪」をかちとった勝利に対し、追いつめられた京大当局は7月12日、4学生に「無期停学」処分を下しました。

この一連の推移の中に、戦争へと向かう今の時代、その中における「大学の腐敗」が凝縮しています。しかし、京大の仲間たちは処分への怒りをも糧に、全国の学生・労働者に「戦争を止めるためにストライキが今こそ必要だ!」と呼びかけを発しています。ここに、学生同士の競争、社会や大学に唯々諾々と従う「学生像」をのりこえる学生の真の可能性が示されています。

戦後間もない1948年、「戦犯教授追放」「生活防衛」を掲げた116校30万人のゼネラル・ストライキの嵐の中から生まれ出た全学連は、全社会を変革してやまない怒りと情熱、先駆的闘いで常に社会を揺り動かし続けてきました。全学連大会からは、歴史に刻み込まれるいくつもの巨大な闘争が準備されてきました。今次全学連大会を、改憲・戦争への危機感から新たに行動に立ち上がり始めた広範な学生、学費・就活・奨学金で苦しむ無数の学生、「声なき声」と結びつき、これまでを「前史」とするような歴史的大会として成功させたい。

今次大会の最大の課題は、2日間の徹底論議で安倍政権の改憲・戦争への道と立ち向かい、戦争を必ず食い止める学生運動の登場をかちとることです。全国に闘う学生自治会を甦らせることです。

7月参院選の結果、衆参両院で改憲勢力が2/3議席以上を獲得したことを受け、安倍政権は今秋の憲法審査会で本格的に改憲論議を開始すると公言しています。何よりも「交戦権否認」「軍備不保持」を謳った憲法9条解体を中心に、「戦争のできる国」へと国家大改造を行うことを狙っています。改憲という日本階級闘争初の事態を前に、昨年の安保国会をはるかに凌駕する大闘争が巻き起こること、改憲絶対阻止の大決戦が到来することは不可避です。安倍政権はまったく磐石ではありません。参院選過程では改憲を問題にすることさえできず、沖縄・福島では現職閣僚が落選しています。国会内論議や国民投票を座して待つのではなく、キャンパスや職場で大論争を巻き起こし、ストライキで安倍政権を倒す中に改憲阻止の道があります。そもそも憲法とは、出発点からして「革命の産物」に他なりません。国家大改造としての改憲に対し、革命を対置し闘いぬくことです。

実際安倍は、改憲を前に労働運動・学生運動の解体に踏み出しています。すでに、職場やキャンパスで「改憲の先

大会要項

【日時】 9月1日(木)～2日(金)

【会場】 東京都内

【参加費】 1000円(会場費、資料代など)

【連絡先】 TEL 03-3651-4861 mail_cn001@zengakuren.jp http://www.zengakuren.jp

※宿泊費は除く

取り」と言える事態が激しく進行しています。軍事研究の解禁、奨学金返済の困難性と貧困につけ込んだ「経済的徴兵制」の論議の開始、大学キャンパス内で闘う学生への逮捕・処分の乱発…。「大学改革」の名の下に進められてきたこれらの政策こそ「大学の戦争動員」であり、「第二の学徒出陣(学徒動員)」への道を準備するものです。

労働現場でこの間行われている労働者派遣法改悪、労働契約法改悪こそ、「第二の改憲」とも言える大攻撃でした。これら労働法制大改悪で、2018年にむかつて2千万人近い有期雇用労働者の首が切られ、また日本の戦後の雇用慣行の最後の解体、すなわち「正社員ゼロ」総非正規職化へと事態は進行しています。重大なのは現在、職場における労働条件変更がこれまでの労使の合意をもって決定するあり方から、「就業規則」での資本による一方的変更へと転換しつつあることです。これこそ、「会社のいうことには従うしかない」「仕事だから仕方ない」として、労働者・労働現場を戦争へと動員するあり方そのものです。東北大学における非正規職大学職員3200人の大量解雇に見られるように、大学でも同様の事態が進行しています。国家大改造＝実質的クーデターとしての改憲に対して、職場・キャンパスからのストライキで立ち向かう時です。

ウクライナ・中東で開始された戦争は、日本における改憲・戦争問題と完全に一体です。この背景をなすものこそ、世界大恐慌＝資本主義の終焉です。かつて世界戦争に向かった歴史と同様の過程が、私たちの目の前で進行しています。英のEU離脱、アベノミクスの崩壊は大恐慌をさらに深化させ、資源・市場・勢力圏の奪い合いはついに、軍事的・戦争的衝突の段階へ突き進んでいます。そして、「外への侵略戦争」と同時に、「内に向かった戦争」として、労働法制改悪、社会保障解体が激しく進行しています。「1%」の支配者に強制される戦争・貧困。しかし今や、「99%」の側が国境や民族、あらゆる分断をうち破って闘いに立ち上がり始めています。まさに革命の開始です。そして、日本と東アジアこそが、世界史的大激動の中心軸となろうとしています。

11月初旬から中旬にかけ、JRの労働組合である動労千葉(国鉄千葉動力車労働組合)と、韓国で職種・産別をこえてゼネラル・ストライキに立ち上がる民主労総・ソウル地域本部がともに手を携え、万国の労働者に国際労働者共同行動を呼びかけようとしています。昨年11月、日本とともに集会を担ったドイツ・トルコの仲間をはじめ、闘いと連帯はヨーロッパ全土にも広がるようとしています。

国際連帯と自国政府を打倒するゼネストこそ、社会変革のために最も求められていることです。「野党共闘」はすでに破産しています。民進党は改憲論議に加わることを公言しています。日米安保や自衛隊を容認するに至った日本共産党も実質的改憲勢力です。

私たちはこの現実に対し、キャンパスで闘うこととあわせ、今回の参議院議員選挙・東京選挙区で「革命」を真っ向から掲げ、「新しい労働者の政党をつくろう」と訴える鈴木たつお弁護士を押し立て、1万6187票を獲得しました。この革命前夜、キャンパスで、国会前で、そして国政選挙をも舞台として闘う全学連とともに、社会の根底的変革へともに行動を開始しよう！。

(以上)